

科目名		学年	単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
国語Ⅱ(現代文・古文) : Japanese II		2ESC	2	90分×30回	履修	講義・通年	—
教員名		中井 賢一 : NAKAI Kenichi					
授業概要	<p>検定教科書掲載の現代文・古文を素材として、国語科四内容(話す・聞く・書く・読む)についての応用的運用力を養う。 現代文領域においては、評論からは筆者の見解を、また、小説からは作品の主題を、いずれも正しく「読む」方法を学ぶとともに、自身の感想や意見を正しく「書く」ために、また、「話す」ために必要な知識や技能の習得を目指す。語彙力の充実を図るため、適宜漢字テストを行う。 古文領域においては、文法事項の理解のみに留まらず、鑑賞文の制作を通して作品享受のありかたについても考える。 語彙力の充実と定着を図るため小テストを、また、速読力の強化を図るためリーディング課題を、それぞれ適宜実施する。</p>						
到達目標				評価方法			
(1) 評論・小説の特徴を理解し、それぞれ正しく読解することができる。 (2) 自らの感想や意見を適切に表現することができる。 (3) 文語文法等についての理解が定着し、作品を読み味わうことができる。 (4) 文学史について、正しく理解することができる。				① 試験(中間・期末)(60%) ② 到達度確認テスト・小テスト・リーディング課題・鑑賞文(20%) ③ 自学レポート(10%) ④ 受講態度(10%)			
学習・教育目標		G①		JABEE基準1(1)		—	
回	項目	内 容		回	項目	内 容	
第1	ガイダンス	授業の概要と授業の受け方について理解する。		第16	和歌①	暗唱テストを行う。和歌のリズムを理解する。	
第2	評論(1)①	「手の変幻」を素材として、評論文の読解方法について理解する。		第17	和歌②	和歌修辞法に習熟し、作品の主題と背景について理解を深める。変体仮名についての理解を深める。	
第3	評論(1)②	"		第18	和歌③	指定された和歌一首について、鑑賞文を書く。相互評価を行う。	
第4	古今著聞集	「大江山」を素材として、文法事項の知識と和歌読解の方法について復習する。		第19	和歌④	鑑賞文を適切に口頭発表する。	
第5	方丈記①	「ゆく河の流れ」を素材として、文法事項についての理解を深め、作品の主題を読み取るとともに文学史上の位置について考える。		第20	詩	三編の詩を素材として、主題読解の方法について理解し、鑑賞文を書く。	
第6	方丈記②	"		第21	小説(2)①	「こころ」を素材として、小説の読解方法に習熟する。主題に対する自分の考えをまとめる。	
第7	方丈記③	主題に対する自身の見解をまとめ、鑑賞文を制作する。回覧し、相互評価を行う。		第22	小説(2)②	"	
第8	到達度の確認	文法事項と古語についての「到達度確認テスト」を行う。		第23	小説(2)③	"	
第9	小説(1)①	「山月記」を素材として、小説の読解方法について理解する。		第24	小説(2)④	「こころ」作中人物論としてレポートを書く。	
第10	小説(1)②	"		第25	更級日記①	「門出」を素材として、助動詞・助詞までの文法事項を整理しつつ、作品の主題を読み取る。文学の享受について理解する。	
第11	小説(1)③	「山月記」の主題について、レポートを書く。相互評価を行う。		第26	更級日記②	"	
第12	伊勢物語①	「初冠」「通ひ路の関守」を素材として、和歌修辞法についての理解を深め、作品の主題と後世への影響について考える。		第27	源氏物語①	「桐壺」(冒頭)を暗唱する。源氏物語の文学史上の位置と後世への影響について理解する。	
第13	伊勢物語②	"		第28	源氏物語②	「若紫(前半)」を素材として、敬語を中心とした文法事項について理解しつつ、作品の主題を読み取る。王朝の文化と政治について理解する。	
第14	評論(2)①	「日本人の『顔』」を素材として、評論文の読解方法に習熟する。筆者の見解に対する自分の意見をまとめる。		第29	源氏物語③	"	
第15	評論(2)②	"		第30	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う。授業評価アンケートを行う。	
自学自習の内容	レポートを課す。						
関連科目	国語Ⅰ						
教科書	『改訂版高等学校現代文』『改訂版高等学校古典(古文編)』第一学習社						
参考書							
授業評価・理解度	最終回到授業評価アンケートを行う。						
副担当教員							
備考	国語Ⅰ(3単位)の最終評価は、国語Ⅱ(現代文・古文)と国語Ⅱ(漢文)を2:1として評価する。						